ことばの足し算とその不思議

小　倉　雅　明*

抄録：「論理的に考える」ことは日常生活から専門的な探究まで、あらゆる場面で必要とされる手続きの一つであるが、ことばに向き合うにあたり、それはどのような気づきを与えてくれるのだろうか。本稿では素朴な意味合成の観点から複数の言語現象を眺め、ことばの不思議や面白さ、そして「論理的に考える」ことの意義について導入を図る。

キーワード：ことば、論理、意味合成

1. はじめに

論理的に考える――これが物事を考えるための基礎であることは論を待たない。根拠に基づき、筋道を立てる。必要に応じて推論を働かせ、結論にたどり着く。物事を分析する際の基本的な思考手順であろう。とはいえ、この「論理」ということばには幅があり、少々曲者であるように思われる。

もっとも厳密と思われる論理操作の一種として、記号論理の演算がある。推論構造や過程を定式化して扱うものである。アリストテレスの論理学以降、長い歳月を経て発展してきた伝統をもつこの分野は数学や諸科学（哲学も含む）の基盤を形作ってきた[注1)]。ことばの分析も例に漏れず、意味の演算が試みられることもある。

論理演算では、連言、選言、否定、含意、同値などの論理結合子をもちいて意味関係を記号化する。P と Q からなる P & Q の意味は、P と Q の意味を合成すれば得られ、P∧Q は交換法則により Q∧P と同値といった具合である。

しかし、ことばの意味解釈や実態はこの厳密な論理をいとも簡単にすり抜けてみせる。本稿ではその実例をいくつか確認しつつ、論理にこだわる視点を否定するのではなく、むしろその有用性について述べる。

2. 正しさと慣用の問題

実例の検討に入る前に、少しばかり、論理と言語変化について英語を例に歴史的背景を加えたい。ことばと論理の問題は、ことばの「正しさ」の問題と無縁ではなかった。とくに、17 世紀から 18 世紀ごろ、「正しい英語」を求める機運が高まっていた英国ではそうであった[注2)]。

歴史をさかのぼれば、ヨーロッパという広い単位で見れば、（現在の）イタリアにおけるクルスカ・アカデミー、フランスのアカデミー・フランセーズによる辞書編纂が国家的プロジェクトとして存在していたし[注3)]、英国ではそのような国家的プロジェクトは成立しなかったものの、『ガリバー旅行記』で知られる Jonathan Swift や『ロビンソン・クルーソー』の Daniel Defoe が「英語の乱れ」をなげくなど、イタリアやフランスのような言語アカデミーの設立を求める声があった。このような時代背景のもと、18 世紀後半には Robert Lowth や Lindley Murray などの文法家が論理的側面を重視して規範的な文法書を認め、英文法（とくに学校英文法）に影響を与えることになった[注4)]。一方、このような時代にあって、化学者でもあり、神学者でもあった Joseph Priestley は言語の「慣用」の問題に目を向け、こう述べる。

> The general prevailing custom, whatever it happen to be, can be the only standard for the time that it prevails.[1)]（一般的に広まっている慣用は、何であったとしても、その時代の唯一の標準となり得るのだ。）

Priestley の指摘通り、ことばの実態は慣用による部分が大きい。それはレトリックのレベルだけではなく日常的なレベルにまで及ぶ。

3. 論理と意味解釈

3.1 記号論理を阻むことば

素朴な「論理」とことばの関係について、もっとも単純な例から見ていきたい。「犬と猫」はどうか。同一の文脈において「犬と猫」の指す対象は、おそらく一般的

*大阪大谷大学教育学部

には「猫と犬」と同じであろう。もちろん、「視点」の問題はあるが、世界の中での記号的な意味においてこの二つは同値と考えてよさそうに思える。しかし、それでよし、とはいかない。このもっとも単純と思われる「と」でさえ、ことばの解釈にあっては興味深い。たとえば、「と」に相当する英単語である and はどうか。次の凡例を見られたい。

Bill went to a restaurant and he ate sushi.
（ただし、Bill と he は同一人物とする）

この凡例では形式の上では Bill went to a restaurant と he ate sushi が and で等位接続されている。では、この英文において、and は本当に両方の命題を「等しく」接続しているのだろうか。すなわち、上記の凡例の読みは、次の場合と同じであろうか。

Bill ate sushi and he went to a restaurant.

答えは、否である。私たちは and で並列された命題の順番から時間的順番を読み取っており、この二つの英文は意味解釈上、同値ではない。このように、ことばの解釈においては厳密な記号論理（だけ）ではうまくいかないことが多々ある。この、「A と B」の意味合成[注5]の問題は、じつに多様なレベルで存在する。

3.2　焼き鳥とは何か——意味合成と論理

Priestley の言述を再確認するまでもなく、言語は極めて慣用的である。その慣用性は論理的不規則性を覆い隠す。ここで示唆的なテクストを一つ紹介したい。村田沙耶香の『コンビニ人間』からの引用である。この作品の中で、主人公の古倉は自分のことを「奇妙がられる子供」であったと述懐する。幼稚園のころ、公園で小鳥が死んでいた。それを見て他の子どもたちは泣いている。どうしようか、と一人の女の子が言った瞬間、「私」はその小鳥を手のひらにのせて母親のところに行く。母親はお墓を作ってあげようと提案する。それに対して「私」は言った。

〔……〕「お父さん、焼き鳥好きだから、今日、これを焼いてたべよう」[2)]

母親は困惑した。それほど想像に難くないかもしれない。「焼き鳥」は（典型的には）鶏肉を串にさして焼き、たれや塩などで食べるものである——慣用的な焼き鳥の理解は一度わきにおき、厳密な論理だけを考えてみたい。この少女が死んだ小鳥を「焼き鳥」にしようと考えたことになんの論理的問題があるだろうか。「焼き鳥」というのは「鳥」を焼いたものだから、この「小鳥」だって、焼き鳥にしてよいはずなのだ。しかし、社会的に期待される慣習がそれを拒む。死んでいる小鳥はかわいそうだからお花をつくって弔ってあげなければならないのである。しかし、鶏は殺して焼き鳥にして食べるのに、死んでいる小鳥はかわいそうだからお墓に埋める——この理屈に少女は納得がいかない。少女の直感的論理は慣習の非論理を浮き彫りにする。私たちはこの少女に、どのような論理をもって反論することができるだろうか。ことばの使用そして広くはそれにまつわる社会的慣習は日常的に恣意的である。

この焼き鳥の問題はことばの面白さを考えるにあたって格好の材料を提供してくれる。「鳥」は少なくとも二つの問題をはらむだろう。まず、焼き鳥で使われる「鳥」とは何か、という問題である。焼き鳥の対象となる鳥は極めてその範囲が狭いらしい。少なくとも、カラスや鳩を焼き鳥として食べることは考えにくい。もう一つ、「焼き鳥」の意味について検討が必要だ。「焼き鳥」は典型的には串にささった料理である。しかし、「鳥」と「焼く」という動作を純粋に足せば、鳥の「丸焼き」であってもよいはずである。にもかかわらず、私たちはそれを「焼き鳥」とは言わず、「鳥の丸焼き」と言うのではないか。

ことばの意味は足し算ではなかなか「論理的に」は演算できない。例えば「黒板を消す」はどうか。実際に消えているのは一体何か。もちろん黒板に書かれた文字である。目の前の黒板が急に消えたら、おそらくそれは魔法の世界。「赤ペン」も同様に慣用的である。「赤ペンを貸して」と言われて、見た目が赤色のペンを借りるとする。インクが黒に差し替えられていたらやや困惑する。「見た目が赤であるペン（でインクが赤である必要はない）」という解釈もできそうなものであるにも関わらず。

イディオムにおいてもこのような例は豊富である（そしてそれがイディオムをイディオムたらしめる）[注6]。たとえば英語には、No news, good news. という表現がある。これは「便りがないのはよい知らせ」という意味。一見、「文字通り」と感じるかもしれない。では、「のは」に相当する部分はどこに書かれているだろうか。足し算だけで考えれば「便りがない」と「よい知らせ」を結びつけただけにすぎない。このような例は日常言語において枚挙にいとまがない。

ことばが何を指し、何を表すかはその時の文脈や慣用

によって大きく変わる。厳密に 1＋1＝2 とはならないのかことばの面白いところであろう。ことばの分析においては還元主義がうまくいかない例は豊富にある。

3.3　修飾の論理と慣用

前節で修飾と被修飾の関係にある語同士から生まれる意味には、純粋な足し算の論理ではうまくいかない場合があることを確認した。さらに興味深い例がある。それは、修飾語が論理的には修飾するはずのないものを修飾する例である。英語の例と日本語の例をひとつずつ紹介しよう。

> I was taken to hospital and spent a sleepless night, afraid that the accident had ended my career.[3)]
> 寂しい秋の月が窓の枠に按配よく嵌(はま)っていて、まるで誂(あつら)えた梅干弁当のようだ。[4)]

英語の例では眠れないのは夜ではなくてその時間を過ごす語り手である。文構造上、sleepless は night を修飾するにも関わらず、意味的には sleepless なのは I であることを私たちは問題なく理解する。日本語の例では修飾語「寂しい」が文構造上は「秋の月」を修飾するが、実際に「寂しい」という感情をもっているのは、語り手ではないか。月を見て寂しく感じたのか、寂しい気持ちが月の見え方に投影されたのか。解釈の可能性は一つではない。このように統語構造をこえた修飾関係[注7)]は珍しくない。

ここで取り上げた例は相応にレトリカルな例かもしれない。が、これをレトリックの問題として片付けるのは性急であろう。そもそも、修飾関係は程度問題の側面があり、純粋に論理的な修飾関係というのはむしろ珍しい。

「素敵な車」であれば、「素敵な」が「車」を修飾する。では、意味的の点で、「素敵な」は文字通り「車」を修飾すると考えてよいのだろうか。「素敵な車」で私たちはどんな車を思い浮かべるだろうか。おそらく一般的には車の目に見える部分をさして素敵であると言う。一見文字通りの修飾関係であっても、「素敵」が典型的に修飾するのは「車」の特定の側面でしかない。では、「素敵な人」はどうか。「見た目」が素敵であると解釈することも可能だが、おそらく慣用的には人間の素敵な内面に接して私たちはその人を「素敵な人」と形容するのではないか。修飾関係の解釈は慣用や文脈で揺れ動く。

3.4　「ことば無し」かつ「意味あり」――文脈が与える解釈

すでに見たように、ことばの足し算で純粋に意味を計算することは難しい。それどころか、ことばのやりとりにおいては、何もないところから意味が生まれることもある。実例で確認しよう。

以下は山本周五郎の短編からの引用である。岡田虎之助がついに剣の達人、別所内蔵允に会う場面。

> 虎之助の背筋を火のようなものが走った。言葉や姿かたちではない、静かな、噛んで含めるような老人の声調を聴いているうちに、彼はまるで夢から覚めたように直感したのだ。
> ――此の人だ、別所内蔵允はこの人だ！
> そう気づくと共に、虎之助は庭へとび下りて、土の上へ両手を突いた。
> 「先生……」
> 老人は黙って見下ろした。[5)]

黙説と呼ばれる現象である。虎之助は「先生……」としか発言していない。そこにあるのは「先生」という名詞のみである。しかし、この絶句が彼の感慨を伝える。沈黙はしばしば雄弁で、語るよりも多くを伝える[注8)]。

3.5　否定の論理――スケールを突き抜ける

これまで、意味の足し算、修飾関係、黙説の例を見てきたが、論理について考える際に、否定についてふれないわけにはいかない[注9)]。もっとも基本的なものとして「A ではない（$\overline{A}$）」を考えよう。一般的に、$\overline{A}$ は集合の観点からは「A 以外のすべて」の範囲を指示する。

たとえば世界に存在する個物の集合の中である個物について、「人間ではない」と言ったとき、それは論理的には人間以外の全ての存在を表しうる。「強くない」と言った場合は、対極にある「弱い」だけでなく、その中間地点の「ふつう」や「そこそこ」などもスケールとしては含まれる。では、以下の例はどうだろうか。

> 〔……〕そういうことは所詮夫に知れずにはいない。庄兵衛は五節句だと言っては、里方(さとかた)から物をもらい、子供の七五三の祝だと言っては、里方から子供に衣類をもらうのでさえ、心苦しく思っているのだから、暮らしの穴を塡(う)めてもらったのに気がついては、いい顔はしない。[6)]

ここでの「いい顔はしない」は文脈から「嫌がる」の

意に限りなく近い。理屈だけ考えれば「嫌がる」だけにかぎらず、「なんとも思わない」あたりの意味も含みうるはずであるが、慣用的にはそうではない。「穏やかでない」などもその類例であろう。ここで興味深いのは、ある語や表現の否定が純粋に論理的な「～以外」の意味を表さず、むしろその対極にある意味にたどり着くということだろう。

4. 論理的に考える

これまでに見た例から、ことばには純粋に論理的な演算で捉えられない部分が豊富にあることが分かるだろう。しかし、筆者はここで論理――より厳密には記号論理――の存在を否定しているのではない。むしろ、ことばを考える際に論理は非常に有用であることを主張したい。

ここまでとりあげた事例はたしかに、厳密な論理演算をすり抜け、慣用として柔軟にとらえなければいけないものであっただろう（ただし、分析を放棄するべきだという意味ではなく、それぞれが言語学的な分析対象として研究対象とされてきている）。では、論理は、すくなくともここでとりあげた事例の検討において、どのような点で有益なのだろうか。一つあげるとすれば、「厳密に考えればこうなるはずなのに（それに当てはまらない）」という気づきである。

ことばは――そして広義には世界の見方は――論理（広義には規則と言い換えてもよい）で二値的に割り切れるほど単純ではない。例外は山ほど存在する。「例外のない規則は無い」という命題があるように、論理や規則で綺麗にものごとを割り切ることができないことは珍しくない（上述の命題自体、自己言及的パラドックスを含む）。しかし、例外が「例外」として浮かび上がってくるのは、論理（規則）のフィルターを通すからではないだろうか。現象を前にして、論理（規則）が、なければ例外は例外としての地位を与えられず、その現象はあまたある現象の一つにすぎない。ある論理（規則）の体系の中で現象を整理した結果、例外は例外として生じ、そこからあらたな論理（規則）の探究がはじまるのではないか。

古代ギリシャの哲学者、プロタゴラス[注10]の「万物の尺度は人間である」は示唆的である。ことばを用いるのは人間であり、ことばは人間の世界の見方とかかわる。ことばの不思議を考えることは、ひいてはそれを用いる人や、そのことばの存在する文化について考えることでもある。ことばの論理に注目することは、その出発点を惜しみなく与えてくれる。

注

1）アリストテレスの分類やカテゴリーについては、坂本賢三（2006）『「分ける」こと「わかる」こと』（講談社学術文庫）に詳しい。

2）ヨーロッパにおける言語規範と社会の関係については Burke, P.（2004）. *Language and Communities in Early Modern Europe*（Cambridge University Press）が参考になる。

3）アカデミーと辞書の関係については Considine, J.（2014）. *Academy Dictionaries 1600-1800*（Cambridge University Press）が詳しい。

4）英文法をめぐる問題については Crystal, D.（2017）*Making Sense : The Glamorous Story of English Grammar*.（Oxford University Press）が読みやすい。とくに規範文法をめぐっては Tieken-Boon Van Ostade, I.（2010）. *The Bishop's Grammar : Robert Lowth and the Rise of Prescriptivism in English*.（Oxford University Press）を参照のこと。

5）合成原理の限界については Cruse, D. A.（2000）. *Meaning in Language : An Introduction to Semantics*（Oxford University Press）を参照のこと。

6）イディオムの解釈プロセスについては Gibbs, R. W.（1994）. *The Poetics of Mind : Figurative Thought, Language, and Understanding*.（Cambridge University Press）が有益。

7）「転移修飾」（transferred epithet）と呼ばれる現象。

8）沈黙と様々な事物の関わりについてはマックス・ピカートの『沈黙の世界』（佐野利勝訳、みすず書房、1964 年）が面白い。

9）否定についての詳細な議論はとくに Horn, L. R.（1989）. *A Natural History of Negation*（The University of Chicago Press）が必読。

10）紀元前 5 世紀の古代ギリシャのソフィスト。

引用文献

1）Priestley, Joseph : *Joseph Priestley : Selections from His Writings,* Pennsylvania State University Press, 1962, p.139.

2）村田沙耶香：『コンビニ人間』（第 9 刷）、文春文庫、2019 年、p.12.

3）Botham, Ian : *Head On — Ian Botham : The Autobiography,* Ebury Press, 2007, p.113.

4）井上ひさし：「江戸の夕立ち」『手鎖心中』（新装版第 5 刷）、文藝春秋、2016 年、p.170.

5）山本周五郎：「内蔵允留守」『教科書名短篇－人間の

情景－』（中央公論新社編）、中公文庫、2016 年、
p.133.
6）森鴎外：「高瀬舟」『教科書名短篇－人間の情景－』
（中央公論新社編）、中公文庫、2016 年、p.66.

（2021 年 2 月 14 日　受理）